

Coca-Cola East Japan

**Sustainability
Report 2015**

Hearts as **one+**





2020年の
東京オリンピックに向け、
スポーツを通じて、
誰もが活動的で健康的に
過ごせる社会づくりに
貢献します。

P.9



2020年へハッピーをつなぐ

働く女性のハッピー

Hearts as **one+**

ハッピーのある未来へ

私たちコカ・コーライーストジャパングループの使命は、コカ・コーラ社製品を通じたさまざまな事業活動や環境社会貢献活動によって、飲料の明るい未来を創り続け、すべてのステークホルダーのみなさまにハッピーをお届けすることにあると考えます。私たちは、これまでの常識や価値観を変えることを恐れず、バリューチェーンのあらゆる領域において、イノベーションとチャレンジに取り組みます。そして、人びとに新たな感動と驚きをもたらす、より豊かでうるおいに満ちたハッピーのある未来へ向けて、持続的成長を目指してまいります。

女性が
もっと生き生きと
働ける会社にする
ことで、
さらなる成長を
目指します。

P.17

2020年までに
製品および製造過程で
使用した量と同等の水を
自然に還します。

P.25

をつなぐ

日本から地球のハッピーをつなぐ



Index 目次

トップメッセージ P.3
 コカ・コーライーストジャパングループ 企業理念/
 サステナビリティの重点分野/環境方針 P.5
 コカ・コーライーストジャパングループの紹介 P.7

Me (people) 個人(お客様)

2020年へハッピーをつなぐ P.9
 活動的で健康的な生活習慣 P.11
 地域とのコミュニケーション P.12
 製品の品質と安全性 P.13
 責任あるマーケティング活動 P.14
 自動販売機を活用した取り組み P.15

We (community) 地域社会

働く女性のハッピーをつなぐ P.17
 働きがいのある職場づくり P.21
 地域社会の発展に貢献する活動 P.23

World (environment) 環境

日本から地球のハッピーをつなぐ P.25
 環境活動報告 P.29
 マネジメント体制 P.31
 財務・株式の状況 P.33
 主要製品の紹介/編集方針 P.34

つなぐ



※本報告書の記載対象範囲は2014年1月~2015年4月末までを原則としています。

ビジネスの変革と サステナビリティ（持続可能性）の両立を目指して

コカ・コーラ・イーストジャパン株式会社 (CCEJ) は、お客様、お取引先、地域社会、そして当社自身に関する壮大な目標を掲げ、その達成に向けてチャレンジする確固たる信念を有しています。

当社は、わずか2年余りの間に日本最大のボトラー社へと成長しました。「成長に向けたOne+ロードマップ」に掲げる目標達成に向け、当社は事業のあらゆる領域（お客様へのサービスから会社業績に至るまで）において、最大かつ最良であることを目指し変革を進めています。

当社は事業のサステナビリティを最優先ととらえ、経営資源を投資しなくてはならないと認識しています。当社がサス

ティナブルな成長を遂げるためには、活気ある地域社会と人びとの健やかな生活について考えることが不可欠です。これは、当社のビジネスがお客様のあらゆるニーズに対応し、地域社会の発展に貢献することで、地域に根ざした環境保全活動に貢献していくことを意味します。

さらに、私たちは活動的で健康的なライフスタイルをサポート

「成長に向けたOne+ロードマップ」

2012-2014
Forming & Storming
新しいビジネスモデルを
明確化し、展開する

スピード感を持って
統合プロジェクトを
推進

成長機会と
コストシナジーの
特定

する飲料の正しい情報を提供し、お客様自身が安心して飲料を選択できるようにしています。また、年齢や経験を問わず多くのみなさまのライフスタイルをサポートするスポーツプログラムの後援を通じて、運動や正しい水分補給方法を啓発しています。

当社は7,000人以上を雇用する企業として地域経済に重要な貢献をするだけでなく、働きがいのある職場環境の実現を目指し、従業員には学習と成長の機会を提供するとともに、従業員一人ひとりが仕事とプライベートを両立し、生産性の高い効率的な働き方ができるよう支援しています。また、女性活用も最優先事項の一つと考え、女性従業員の雇用促進を掲げると同時に、職場では女性がリーダーシップを発揮する機会も提供しています。

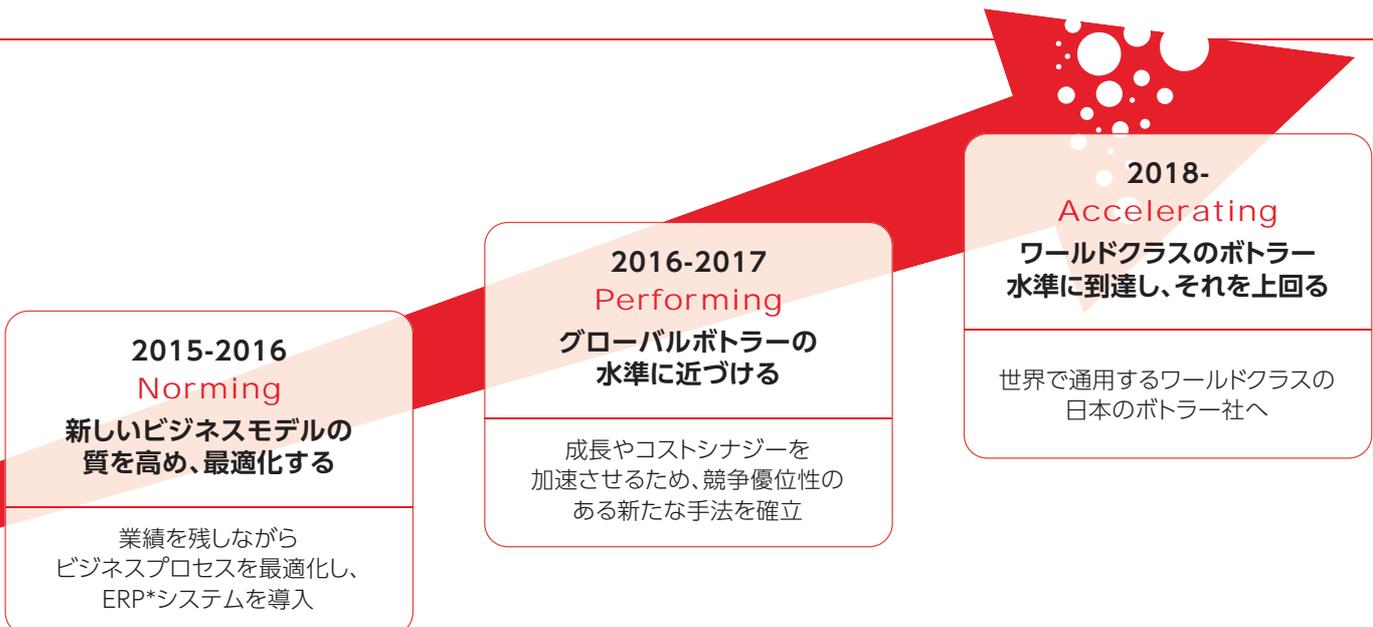
職場におけるもう一つの優先事項は、環境負荷の低減に関する取り組みです。製造で使用する水の効率的なコントロールから飲料容器のリサイクルの推進に至るまで、あらゆる活動領域に環境保護の考えを取り入れています。たとえば、水資源保護活動の一環として、2020年までに製品および製造過程で使用した量と同等の水を自然に還すという大きな目標を掲げ、地域社会とともにサステナブルな環境保全活動を推進していきます。

当社は地域ごとのさまざまな課題の解決に向けて経営資源や専門知識を駆使することで、お客様のニーズに迅速に対応できるような体制を整えており、地域社会に密着したサービスを心がけています。それは、有事の際に製品を無償で提供することができる災害対応型自動販売機への切り替えのご提案や、未来の世代へ向けた水資源保護活動の推進など、シンプルなものから複雑なプロセスのものまで多岐にわたります。

地域とともに発展する企業の責任として、サスティナビリティの領域を推進していくことは、当社の事業戦略になくてはなりません。私は、サステナブルな成長を遂げていくことが当社のビジネスの成功につながり、ステークホルダーのみなさまへ新たな価値を提供できると確信しています。

コカ・コーライーストジャパン株式会社
代表取締役社長CEO

カリン・ドラガン



*ERP: Enterprise Resource Planning

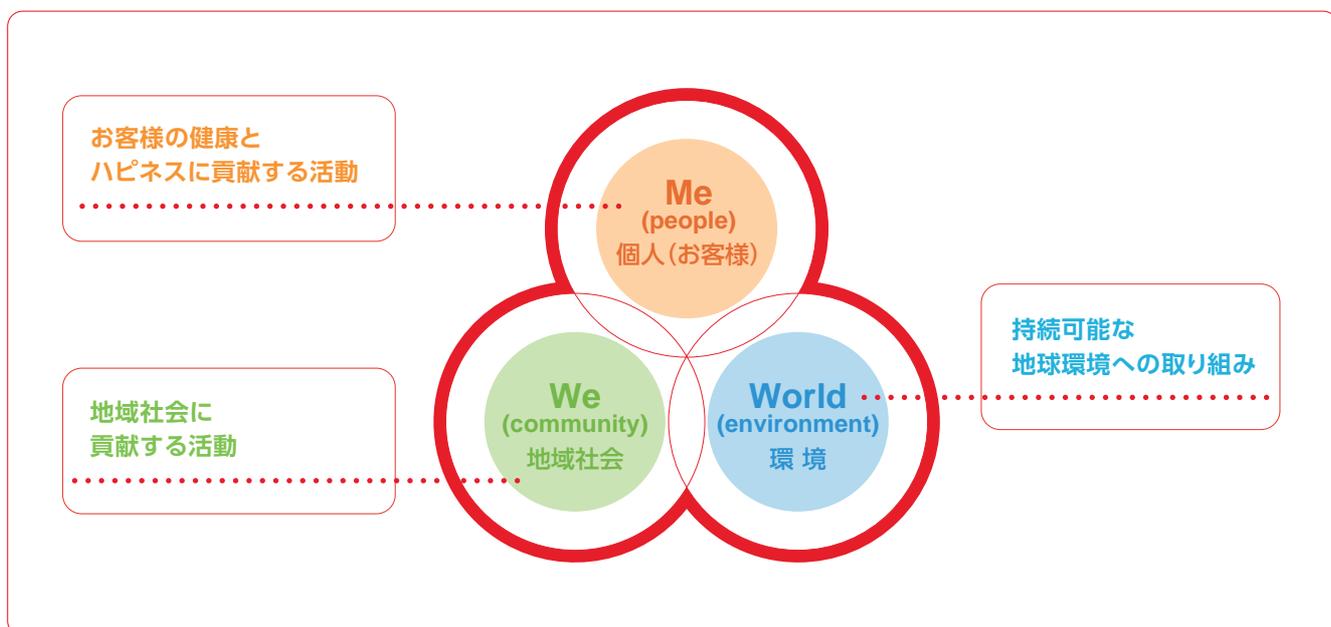
コカ・コーライーストジャパングループ 企業理念

コカ・コーライーストジャパングループの想い。それは、飲料を通じて明るい未来を創りつづけること。私たちは、これまでの常識や価値観を変えることを恐れず、バリューチェーンのあらゆる領域において、イノベーションとチャレンジに取り組みます。そして、人びとに新たな感動と驚きをお届けし、より豊かでうるおいに満ちた世界を実現します。



サステナビリティの重点分野

コカ・コーライーストジャパングループでは、サステナビリティの重点分野として、Me (people)、We (community)、World (environment) の3つを掲げ、お客様、地域社会、環境面においてワールドクラスの日本のポトラー社にふさわしい取り組みを行っています。



環境方針

『基本理念』

コカ・コーライーストジャパングループは、
自然環境に配慮しながら豊かでうるおいに満ちたまちづくりに貢献していきます。
地域社会やステークホルダーとともに環境保全活動に取り組み、
私たちのビジネスが環境に与える影響に配慮し、
「責任ある企業市民」として責務を果たします。

『行動指針』

『基本理念』を実現するために、次の行動指針を定めます。

-  **1 法令遵守**
環境関連法規・条例・各種協定、および自主基準を遵守します。
-  **2 環境負荷の低減**
省エネルギー、省資源、環境負荷の低減を図ると同時に汚染の予防に努め、自然環境へ配慮します。
-  **3 環境投資**
適切な経営資源を投入し、3R「リデュース(排出抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再生)」を推進します。
-  **4 コミュニケーション**
地域とのコミュニケーションを大切に、環境保全の重要性を多くの人々に理解していただけるよう、積極的な役割を果たします。
-  **5 環境教育の実施**
地域の方々、そしてコカ・コーライーストジャパングループの事業活動に係わる全ての人に対し、各種環境教育制度を導入することで意識の向上を図ります。
-  **6 仕組みの見直し**
環境目標およびマネジメントシステムを定期的かつ必要に応じて見直し、継続的改善に取り組みます。

～この環境方針は全従業員へ周知するとともに、社外へ公表します。～

2015年10月1日
コカ・コーライーストジャパン株式会社
代表取締役社長CEO
カリン・ドラガン

コカ・コーライーストジャパングループの紹介

私たちは、日本最大、世界トップクラスのボトラー社として、多くのみなさまに、さわやかさと楽しいひとときをお届けしています。

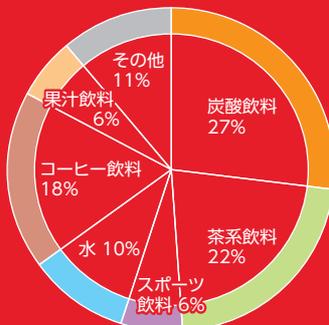
●販売数量(年間実箱ベース)



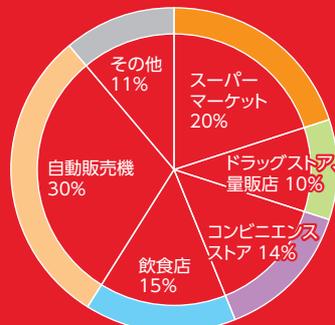
約 **2,810** 万ケース*

日本のコカ・コーラシステムの50%

●カテゴリー別販売数量比率



●チャンネル別販売数量比率



●販売店舗数

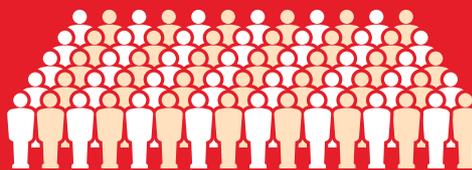
20 万軒以上



●販売エリア

東京都／神奈川県／静岡県／山梨県
愛知県／岐阜県／三重県／埼玉県
群馬県／新潟県／千葉県／茨城県
栃木県／宮城県／福島県／山形県

●販売地域の人口

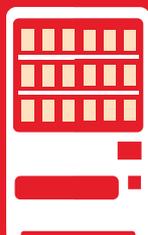


約 **6,600** 万人

日本のコカ・コーラシステムで最大

2014年4月発表「人口推計」(総務省統計局)をもとに算出

●自動販売機、クーラー、ディスペンサーの数

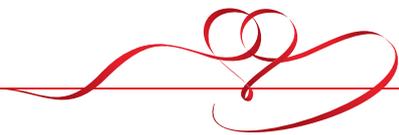


55 万台以上

※販売数量は2014年12月期実績(仙合コカ・コーラボトリング(株)の数字は含みません)。集計方法の標準化を行ったため、新しい集計方法による数字に変更しています。

■会社概要

商号	コカ・コーライーストジャパン株式会社 (英文社名:Coca-Cola East Japan Co., Ltd.)
本社所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂六丁目1番20号 国際新赤坂ビル西館
代表者	代表取締役社長 カリン・ドラガン(Calin Dragan)
従業員数	7,397名(2014年12月31日現在)
事業内容	清涼飲料水の製造、加工および販売
設立年月日	2001年6月29日 (2013年7月1日 コカ・コーライーストジャパン株式会社に商号変更)
売上高	5,232億99百万円(2014年12月期)
資本金	64億99百万円(2014年12月31日現在)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部) コード番号2580



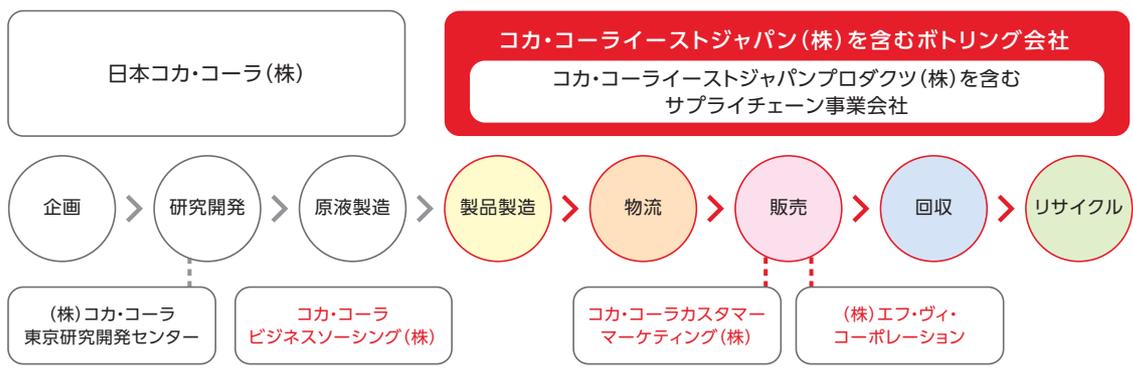
コカ・コーラ イーストジャパン(株)は、コカ・コーラ セントラル ジャパン(株)、三国コカ・コーラ ボトリング(株)、東京コカ・コーラ ボトリング(株)、利根コカ・コーラ ボトリング(株)が経営統合し、2013年7月に発足しました。2015年4月の仙台コカ・コーラ ボトリング(株)との事業統合により、販売エリア、事業規模がさらに拡大しました。

コカ・コーラ セントラル ジャパン(株)	1961年 中京コカ・コーラ ボトリング(株) (当時の社名は中京飲料(株)) 設立 富士コカ・コーラ ボトリング(株) (当時の社名は富士飲料(株)) 設立 1971年 中京コカ・コーラ ボトリング(株) が東京および名古屋証券取引所に株式上場 1993年 富士コカ・コーラ ボトリング(株) が東京証券取引所に株式上場 2001年 両社共同でコカ・コーラ セントラル ジャパン(株) を設立
三国コカ・コーラ ボトリング(株)	1963年 三国コカ・コーラ ボトリング(株) (当時の社名は三国飲料(株)) 設立 1971年 東京および新潟証券取引所に株式上場 2012年 株式譲渡により、筆頭株主がザ コカ・コーラ カンパニーの100%子会社であるヨーロッパリアフレッシュメンツに移行
東京コカ・コーラ ボトリング(株)	1956年 東京コカ・コーラ ボトリング(株) (当時の社名は東京飲料(株)) 設立 1991年 社名を(株)丸仁に変更するとともに、清涼飲料の製造・販売部門を分離专业化、新しい東京コカ・コーラ ボトリング(株)として再発足 2007年 第三者割当増資を実施、日本コカ・コーラ(株)がこれを引き受け総株数の34%を出資
利根コカ・コーラ ボトリング(株)	1962年 利根コカ・コーラ ボトリング(株) (当時の社名は利根飲料(株)) 設立 2009年 キックマン(株)をはじめとする株主から株式を取得し、日本コカ・コーラ(株)が発行済株式50%(160万株)を保有
仙台コカ・コーラ ボトリング(株)	1962年 仙台コカ・コーラ ボトリング(株) (当時の社名は仙台飲料(株)) 設立 2002年 仙台キャンティーン(株)と(株)エフ・ヴィ南東北との統合により、仙台ビバレッジ・ネットワーク(株)設立 2003年 仙台コカ・コーラ プロダクツ(株)設立

コカ・コーラ イーストジャパン(株)	2013年7月	コカ・コーラ セントラル ジャパン(株)、三国コカ・コーラ ボトリング(株)、東京コカ・コーラ ボトリング(株)および利根コカ・コーラ ボトリング(株)の経営統合によりコカ・コーラ イーストジャパン(株)が発足
	2014年1月	コカ・コーラ イーストジャパン プロダクツ(株)を存続会社とし、白州ヘルス飲料(株)、コカ・コーラ セントラル ジャパン プロダクツ(株)および三国アセプティック(株)を消滅会社とする吸収合併を実施
	2014年7月	コカ・コーラ イーストジャパン プロダクツ(株)が、セントラル ジャパン ロジスティクス(株)、三国ロジスティクスオペレーション(株)、利根物流サービス(株)、セントラル ジャパン テクノサービス(株)、三国自販機サービス(株)、マシン・メンテナンス・ネットワーク(株)および利根自動販売機サービス(株)を吸収合併
	2015年4月	仙台コカ・コーラ ボトリング(株)との事業統合 エフ・ヴィセントラル(株)、三国フーズ(株)、アーバン ベンディックス ネットワーク(株)、(株)ウエックス東京、フレッシュ・ベンダー・サービス(株)、EX-サービス(株)、TXキャンパス(株)および日東パシフィックベンディング(株)を1社に統合し、FVイーストジャパン(株)に社名変更

日本のコカ・コーラシステム

日本のコカ・コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発や広告などのマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ(株)と、製品の製造・販売を行うボトラー社や関連会社などで構成されています。コカ・コーラ イーストジャパン(株)を含む各ボトラー社および関連会社では、全国の工場での製品製造をはじめとして、物流・輸送、販売活動を行っています。



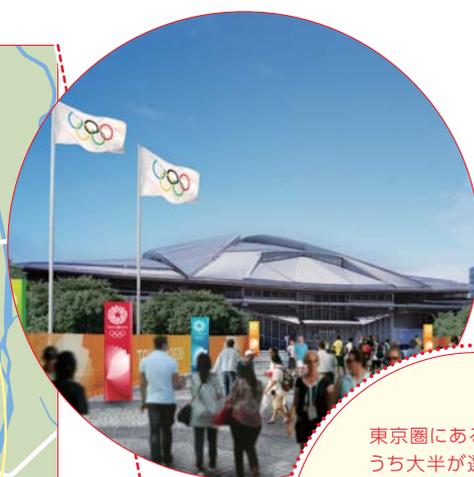


2020年へハッピーをつなぐ

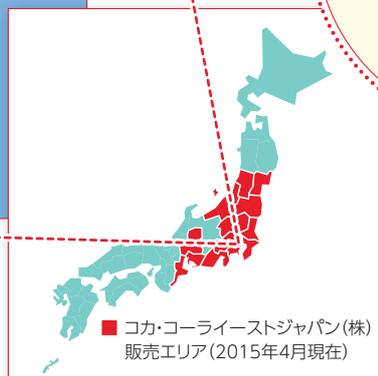
ザ コカ・コーラ カンパニーとオリンピックの歴史は1928年のアムステルダム大会に船で1,000ケースの『コカ・コーラ』を送ったことからスタートしました。そのオリンピックが東京に再びやってきます。開催都市のホストボトラーとして、コカ・コーラ イースト ジャパン (株)は、できるだけ多くのお客様をサポートすべく準備を進めています。また、オリンピックというグローバルイベントを機に、スポーツを通じて、次世代を担う子どもたちの健全な育成を支援し、誰もが活動的で健康的に過ごせる社会づくりに貢献していきたいと考えています。



(2015年6月現在)



東京圏にある競技会場のうち大半が選手村近辺に存在するコンパクトな大会。1964年東京大会のレガシーが集積するヘリテージゾーン、未来に向けて発展する東京の姿を象徴する東京ベイゾーンから構成される。





丸山 宣明 *Nobuaki Maruyama*

コカ・コーライーストジャパン株式会社
広報・パブリックアフェアーズ本部
Tokyo 2020 Olympic Project
マネジャー

ホストボトラーとして、 1,000万人のニーズに応える

オリンピックは非常に多くの人たちが関わるグローバルなビッグイベントです。東京オリンピックにはボランティアだけでも8万人規模の人員が必要だと言われており、選手や関係者、観客を合わせると、約1,000万人の人たちが東京に集まると予想されます。これらの人たちのニーズにどう応えていくか、ホストボトラーとしての大きな課題です。地域のお客様の声を直に聴くことのできる立場を活かし、地域に密着した活動を展開することで、1,000万人すべてのみなさまにご満足頂けるサービスを形にしていきたいと考えています。



勢 瑠衣子 *Luiiko Sei*

コカ・コーライーストジャパン株式会社
広報・パブリックアフェアーズ本部
Tokyo 2020 Olympic Project
アシスタントマネジャー

自動販売機をコミュニケーション のツールとして活用

私は、父の仕事の関係で幼稚園から中学校までアメリカ、カナダで過ごし、そこで見た聖火ランナーの姿が初めてのオリンピック体験となっています。現在、日本のコカ・コーラシステムでは、環境保全や災害支援、地域の活性化に貢献するさまざまな自動販売機が活躍しています。2020年にはこれらをさらに発展させ、世界中から来られるグローバルなお客様とのコミュニケーションツールに発展させるような仕事に関わることができればと考えています。

東京あるいは日本ならではのレガシーを築く

各オリンピック大会のレガシーのテーマは、時代や地域によって変わります。前回の東京大会では、新幹線や高速道路などのハード面が注目されましたが、2020年は、若年層が積極的にスポーツを楽しめるような環境やプログラムづくりといったソフト面が求められるでしょう。オリンピックのパートナーとして、グローバルな知見や実績を活かし、東京あるいは日本ならではのレガシーを築いていきたいと考えています。

渡邊 和史

Kazufumi Watanabe

日本コカ・コーラ株式会社
マーケティング本部
IMC
マーケティングアセット
グループマネジャー



活動的で健康的な生活習慣

心身の健康や健全なライフスタイルを提案する清涼飲料メーカーとして、活動的で健康的な生活習慣づくりを支援するためのさまざまなスポーツ事業への協賛などを通じ、人びとが運動やスポーツに親しむ機会を広く提供しています。

スポーツを通じた活動的で健康的な生活習慣の促進

マラソン大会やママさんバレーボール大会など、地域で行われるさまざまなスポーツイベントを応援しています。各地域より多くの方々が参加し、競技で汗を流すとともに、コカ・コーラ社製品で喉をうるおして頂いています。

Football
全日本少年サッカー大会



Active
Healthy
Living

Volleyball
ママさんバレーボール大会



Marathon
静岡マラソン



水分補給に関する正しい知識の提供

飲料を通じた正しい水分補給の方法などを知って頂くため、スポーツイベント会場で水分補給に関するパネル展示、セミナーなどを実施しています。イベントに参加したみなさまより「水分補給の大切さがとてもよく理解できた」という声を頂きました。



地域とのコミュニケーション

地域のみなさまに愛される企業を目指し、コカ・コーライーストジャングループでは、工場見学などを通じて、地域との積極的なコミュニケーションを行っています。

工場見学

コカ・コーライーストジャパン(株)は、工場見학을地域のみなさまとふれ合える重要な機会と考え、多摩(東京都)、茨城(茨城県)、東海(愛知県)、蔵王(宮城県)の4工場で実施しています。製品が製造される工程を実際にご覧頂くとともに、製品の品質と安全を高める取り組みや製品をつくるために使った水を自然に還す取

り組みなどをご紹介します。また、コカ・コーラ社製品をより多くのみなさまに親しんで頂くために、『コカ・コーラ』のブランドや歴史についても楽しくお伝えしています。2014年は約5万人のお客様にご来場頂きました。

(各工場の工場見学のご案内は裏表紙をご覧ください)

多摩工場の見学プログラムをリニューアル

お客様や地域のみなさまに対して、より分かりやすい情報発信を図り、より工場見学を楽しんで頂くため、2015年4月、多摩工場の見学プログラムをリニューアルしました。



真っ赤なエントランスがお出迎え

コーフレッドに彩られたダイナーのようなエントランスがみなさまをお出迎えします。



来場者の目を引くパネル展示

随所に展示されたパネルで、『コカ・コーラ』の歴史と文化、現在の姿を分かりやすく紹介します。

見て触って体感できるプログラム

まるで炭酸飲料の泡の中にいるようなシュワシュワ感が体感できる映像など、楽しく学べるプログラムがたくさんです。



ユニフォームを着てみよう

営業担当者や工場で働く人のユニフォームを着ることができます。幼児用から大人用まで幅広いサイズをそろえています。



環境への取り組みをアピール

水資源保護や温室効果ガス削減、空容器のリサイクルなど環境負荷軽減への取り組みに対する理解を深めて頂けるよう工夫しています。



樽本 英子 Eiko Tarumoto

コカ・コーライーストジャパン株式会社
広報・パブリックアフェアーズ本部
戦略コミュニケーション&PR統括部
コーポレートアンバサダー
多摩工場 見学担当

村松 恭子 Kyoko Muramatsu

コカ・コーライーストジャパン株式会社
広報・パブリックアフェアーズ本部
戦略コミュニケーション&PR統括部
コーポレートアンバサダーマネジャー

多摩工場は、半世紀以上にわたって地域とともに歩み、1981年から工場見学を開催しています。現在、当社工場の中で最も来場者が多く、年間2万人以上の方が訪れ、近隣の小中学校の社会科見学にも利用されています。あらゆる世代の方々に、当社ならびに『コカ・コーラ』のことをよりよく知って頂きたいと考え、一方的な情報伝達ではなく、対話型・体験型のプログラムで、楽しみながら理解して頂けるものになっています。今後も製造工程や食品安全への取り組みなどを分かりやすくお伝えできるように、改善を重ねていきたいと考えています。

製品の品質と安全性

お客様の多様なライフスタイルに対応し、いつでもどこでも安全でおいしい製品をご提供できるよう、お客様に信頼頂ける徹底した品質管理に努めています。コカ・コーライーストジャングループでは、コカ・コーラシステムがグローバルで展開している独自のマネジメントシステムによって、製品の品質と安全性を高めています。

マネジメントシステム「KORE(コア)」

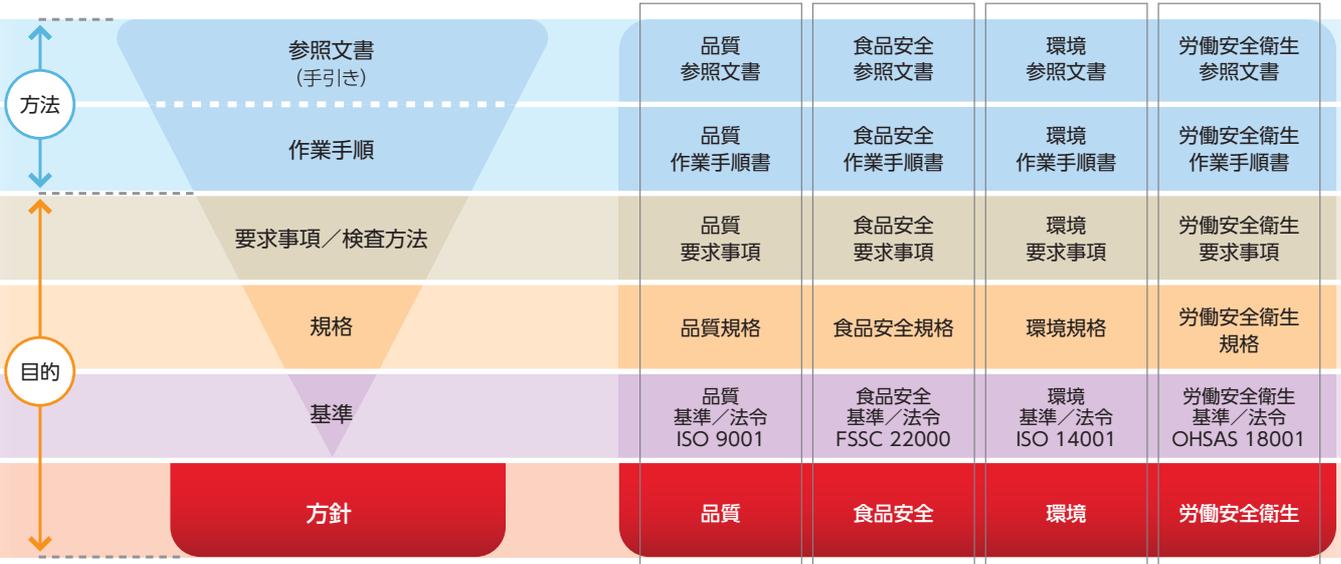
コカ・コーラシステムでは、独自のマネジメントシステム「KORE(Coca-Cola Operating Requirements)」によって、世界共通のオペレーション管理を行っています。「KORE」は、原材料の調達から製造、物流・輸送、販売を経て、お客様に製品をお届けするまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」および「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であ

るISOや各種法令の要求事項を満たし、より厳しい方の基準を自らに課す内容となっています。

コカ・コーライーストジャングループでは、各項目の要求事項に対する実際のパフォーマンス状況を審査登録機関が客観的に評価することで、マネジメントシステムの公明・公正な運用が保証されています。

注:「KO」はニューヨーク証券取引所に上場しているザ コカ・コーラ カンパニーの略称です。

■ 「KORE」フレームワーク図



品質保証システムの国際規格「ISO 9001」の取得

ISO 9001は、製品やサービスの品質保証を通じて、顧客満足向上と品質マネジメントシステムの継続的な改善を実現する国際規格です。

コカ・コーライーストジャングループでは、全製造工場においてISO 9001を取得しています。

食品の品質保証システム「FSSC 22000」の取得

FSSC 22000は、食品の安全な提供に関するリスク低減を通じて、顧客からの信頼の向上を得るために、食品の安全マネジメントシステムのISO 22000と、HACCPの一般衛生管理を強化したPAS220を合体させた国際規格です。

コカ・コーライーストジャングループでは、全製造工場においてFSSC 22000を取得しています。

責任あるマーケティング活動

お客様の健康的なライフスタイルをサポートする一環として、責任あるマーケティング活動に取り組んでいます。お客様のニーズにお応えする製品の製造・販売、パッケージやウェブサイトを通じた飲料製品に関する情報提供、お客様の声への対応などを行っています。

お客様のニーズにお応えする製品の提供

お客様の活動的で健康的な生活を応援するために、お客様の好みや健康志向に合わせ、さまざまな工夫を施した製品を製造・販売しています。

■ 主なカロリーゼロ・カフェインゼロ飲料



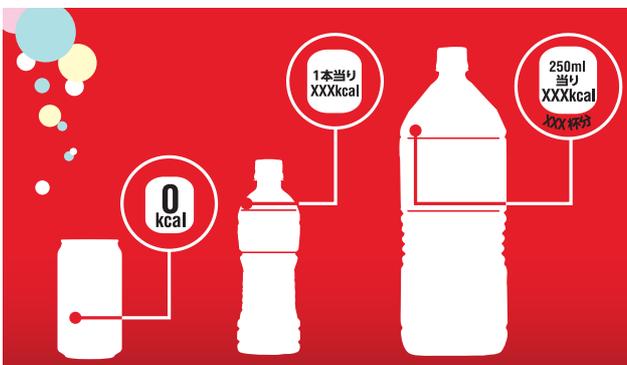
「コカ・コーラ ゼロ」 「アクエリウス ゼロ」
カロリーゼロ飲料

「爽健美茶」
カフェインゼロ飲料

製品に関する情報発信

コカ・コーラシステムでは、製品に関する正しい知識の提供に努め、ほぼすべて*のコカ・コーラ社製品のパッケージ前面にカロリーを表示しています。

■ 製品パッケージ前面カロリー表示



*ファウンテン(カップベンディング、ディスペンサーを含む)、リターナブルボトル、パウダー製品、希釈製品、水(無糖・フレーバーなし)については、製品パッケージ前面カロリー表示の対象外となります。

*カロリーは正数(小数点以下切り捨て)で表示しています。

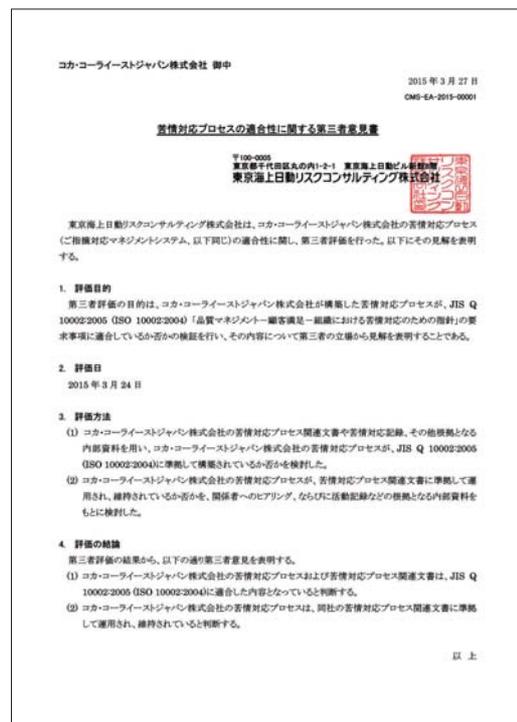
*大型パッケージについては250mlを1杯分として容量換算しています(小数点第二位四捨五入)。

お客様の声への対応

コカ・コーラシステムジャパン(株)では、お客様からのご指摘対応の国際規格[ISO 10002(JIS Q 10002)*]への自己適合宣言を行い、第三者より適合評価を受けています。お客様やお取引先様からの「ご指摘」に対し、社内の各部門が緊密な連携を図り、スピーディーに対応する体制を整えています。

*ISO 10002(JIS Q 10002)

お客様満足向上のために、製品・サービスの品質やご指摘対応プロセスの継続的な改善を図ることを目的とした国際規格で、PDCAサイクル(Plan(計画)→Do(実施)→Check(監視・監査)→Action(見直し))によるマネジメントシステムの運用を規定しています。



苦情対応プロセスの適合性に関する第三者意見書

製品に関するお問い合わせ

日本コカ・コーラ(株)

お客様相談室(土日・祝日を除く9:30~17:00)

☎0120-308509

自動販売機を活用した取り組み

「いつでも、どこでも、誰にでも、おいしい飲料を手にする事ができる」自動販売機の利便性を活かし、コカ・コーライーストジャパン(株)では、自動販売機を活用した環境保全や災害支援、地域の活性化に取り組んでいます。



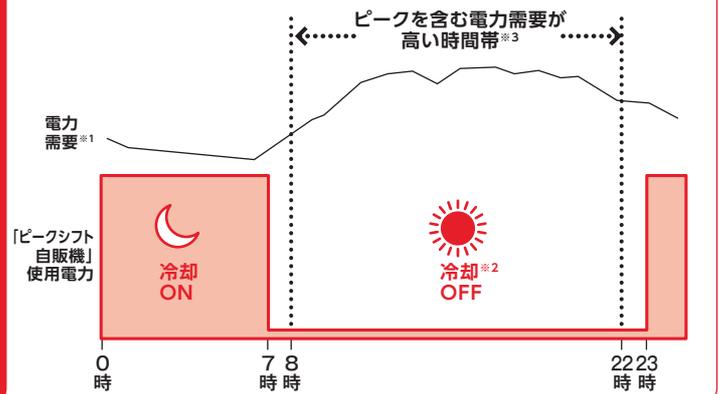
「ピークシフト自販機」

夏の電力消費のピーク時間帯を含めた最長16時間もの間、冷却用の電力を完全に停止しても24時間いつでも冷たい飲み物を提供することを可能にした自動販売機です。もちろん冬場でもその性能を発揮し、最長14時間停止することが可能です。

当社の販売エリアにおける「ピークシフト自販機」稼働台数(新品機) **33,358台**(2014年12月現在)

最長 **16** 時間
日中の冷却運転を停止

最大時 **95%** 消費電力を削減
24 時間
いつでも冷えてる



- ※1 各電力会社の2012年度夏期最大需要日の電力使用率 出典:各電力会社公表資料より作成。
- ※2 日中冷却が停止している時も販売に必要な待機電力が発生します。「ピークシフト自販機」が設置されている場所によって夜間に冷却停止し、日中冷却するように設定されている場合があります。また日中、製品補充後に冷却運転を行う場合があります。
- ※3 2014年4月に施行された、改正省エネ法設定の「電気需要平準化時間帯」を指します。



「ルーフトップ緑化自動販売機」

ルーフトップ部分に、コケの一種「スナゴケ」と人工芝を組み合わせた緑化シートを施し、表面の温度上昇を抑え、冷却効率の向上を図りました。一定の消費電力削減効果を見込むことができます。



災害対応型自動販売機

大規模災害などの発生時、遠隔操作により無償で製品を提供できる自動販売機。災害時には、上部の電光掲示板に必要な情報を流すことも可能です。東日本大震災発生時には製品の無償提供が行われ、帰宅困難者の方々から感謝の声を多数頂きました。

さまざまな社会貢献型自動販売機

自動販売機を設置させて頂いているお取引先様と協働で、自動販売機の売上金の一部を社会貢献活動や環境保全活動を行っている団体などに寄付する取り組みを展開しています。製品購入を通じて寄付を行うことができる身近な社会貢献ツールとして、多くの方々から支持されています。



「いる・は・す自動販売機」



「CIESP(シーセフ)自動販売機」



「ピンクリボン自動販売機」



「スペシャルオリンピックス自動販売機」



社会貢献型自動販売機の導入事例

利便性を目的としてご利用頂いていた自動販売機を社会貢献型自動販売機にリニューアル。1本お買い上げ頂くごとに社会の役に立てるという意義を示すことで、ご通行中の方々の目を引いています。



町田 直人 *Naoto Machida*

ココ・コーライーストジャパン株式会社
市場開発第一統括部三部



「買うだけで社会貢献になる自動販売機」は売上げも上がり、オーナー様にとっても、社会にとっても良い自動販売機ですが、デザインのやり取りなどカスタマイズに時間がかかることが多いので「スピード感」をとにかく大事にしています。あるNPO法人様から「事務所の施設に置かれている自動販売機で何かできないか」とご相談を受けた時は、まさきに「社会貢献型自動販売機」を提案しました。NPO法人様から

は、「新しい試みとして団体内で好評で、以前よりも自動販売機で商品を購入している方を見ることも多く、とても嬉しく思っています。設置後のオペレーションやメンテナンスをすべてお任せできる点は非常に助かりました」とご好評を頂いています。

今後も『ココ・コーラ』というブランド力を活かし、お客様とともに、この自動販売機を広めていきたいと考えています。



働く女性のハッピーをつなぐ

「コカ・コーラ社製品のお客様には女性が多いのに、なぜうちの会社には女性が少ないのだろう」。2013年の暮れ、4人の女性のこうした会話がきっかけとなってスタートした女性活躍推進活動は、全社プロジェクト「GOLD」へと発展しました。女性の活躍推進を通じて多様な価値観を浸透させるこのプロジェクトは、ワールドクラスポトラーを目指すコカ・コーライーストジャパン(株)の成長戦略を担う基盤となりつつあります。



青山 朝子 *Asako Aoyama*

コカ・コーライーストジャパン株式会社
常務執行役員 財務経理統括部長
Team GOLD
プロジェクトリーダー



女性管理職のランチミーティング

女性の視点をマーケティングや経営に活かすことが重要

4つのボトラー社の経営統合により、それまで別々の会社で働いていた女性同士が顔を合わせるようになる中で、女性の活用という課題がたびたび上るようになりました。その解決のためには、私たち女性自らが声を発するとともに、経営陣からお墨付きをもらい、全社を巻き込んだ活動にしていく必要がありました。各部門のリーダーなど多くの男性管理職から多大な理解と応援を頂き、プロジェクトは1年目から順調なスタートを切ることができました。女性の積極活用を進めるうえで、社内の意識改革はとて

も大事です。これは男性社員に限ったことではありません。女性社員の「あきらめ感」を払しょくし、本当にやる気のある有望な人材を管理職として育成していくためにも、多様な価値観を取り入れ、女性のニーズに合った制度や仕組みを構築していく必要があります。当社のような消費財を扱っている会社では、チャネルによっては購買者の多くが女性であることから、特に、女性の視点をマーケティングや経営に活かしていくことが重要であると考えています。

パフォーマンススペース評価

柔軟な働き方の実現

2020年にあるべき姿

採用

採用候補者のうち
少なくとも
50%が女性

就労

社員の
20%が女性

育成

100名の女性
マネジャー

ワークライフ
バランス

子どもが生まれる
男性社員の100%が
育児休暇を取得

GOLD ゴールド(Growing Opportunities by Leading in Diversity)

「人事方針」にあるとおり、コカ・コーライーストジャパングループでは、さまざまなバックグラウンド、制約、価値観を持つ人たちが協働し活躍できることが真の競争力を生み出すと考えています。

具体的には、一人ひとりに均等な活躍の機会を与え、その成果

に基づき公正な報酬、昇進を図っていくことが重要だと考えています。こうした考えから、まずは女性の活躍推進に注力し、社内の意識改革、女性社員の増加、インフラの整備を中心に取り組んでいます。

Step 1 現状把握・課題抽出

女性活用における社内の現状を把握するため、2014年4月に全社員を対象としたオンライン・アンケートを実施(回答率49%、3,700名)。また、7つの事業所でグループインタビューを実施。その結果、課題が明らかとなりました。

女性活用における社内の課題

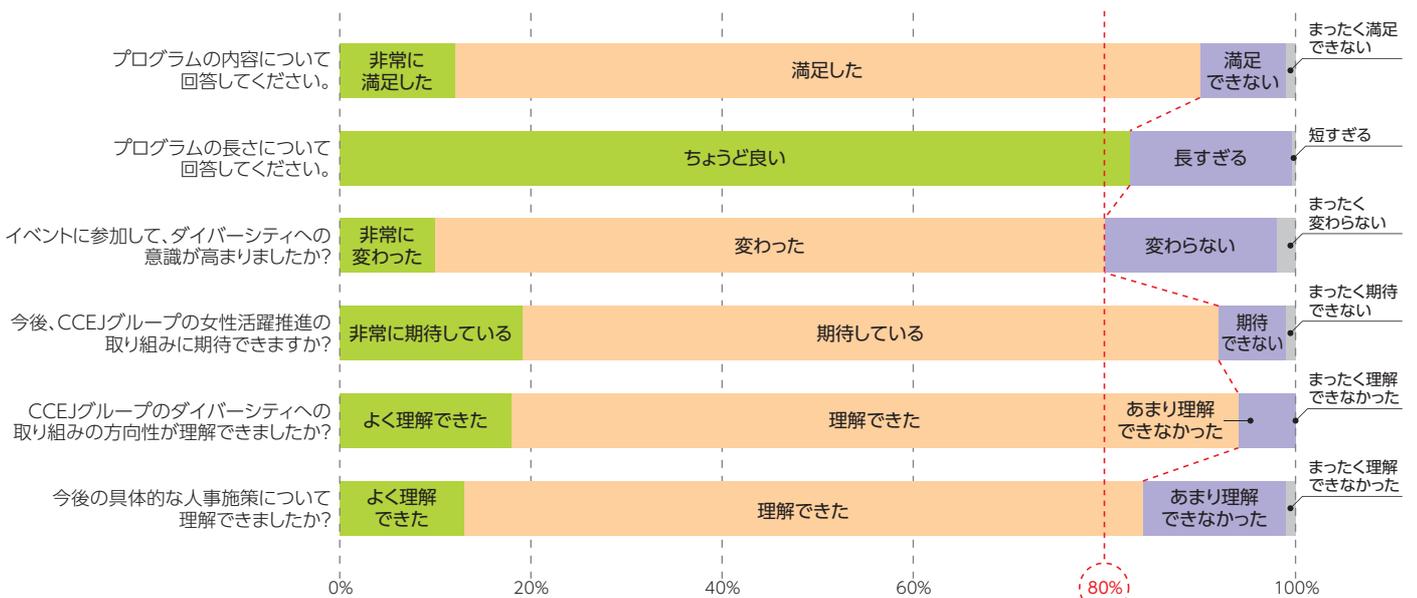
- 女性社員の「あきらめ感」
- 本社と現場の意識乖離
- 社員の当事者意識が希薄

Step 2 意識改革

女性社員および男性管理職の意識改革を図るため、2014年7月にGOLDダイバーシティ キックオフミーティングを実施しま

した。その後の調査では、出席者の80%以上がほとんどの質問に対してポジティブに回答していました。

● GOLDダイバーシティ キックオフミーティング 出席者アンケート調査結果



Step 3 インフラの整備

2014年は、社内イントラ「One Press」で現行制度の周知徹底を図りました。2015年は、育児・介護コミュニケーションハンドブックを配布し、ライフイベント時の制度と対応の理解促進を図るとともに、女性用ユニフォームの導入を進めています。



育児・介護コミュニケーション
ハンドブック「Shine for 社員」



女性用ユニフォーム(営業担当者)

社員のやる気と能力開発をつなぐ

LEAP リープ(Leadership Excellence & Accelerating Performance)

ビジネスを牽引する強いリーダーシップを発揮し、部下の成果をきちんと評価できる管理職を育成するため、選抜された部長以上の上級管理職120名を対象にしたリーダーシップ研修[LEAP研修]を実施しています。

1週間の研修を3回受講するこの研修を通じて、「リーダーシップ強化」、「トップとのアラインメント」、「横のつながり強化」を目指していきます。



LEAP研修

Ace エース(Absolute Commitment to English)

コカ・コーラシステムにおける共通言語である英語の能力向上を図り、経験や能力を十分に発揮できる職場としていくため、英会話教室「ACE」を展開しています。勤務時間中の受講が可能で、英文法、メールの書き方、フリーディスカッションなど、さまざまなニーズに合わせたカリキュラムがあります。すでに約1,200名の社員が登録しており、会社では週2回の積極的な受講を推奨しています。



英会話教室「ACE」

コカ・コーラシステムジャパングループでは、明確な人事方針を定め、職務体系、報酬・福利厚生、評価、就業環境、人材マネジメント／能力・キャリア開発の制度を段階的に整えています。たとえば「評価」では、2014年からグループの全従業員に対し、何(What)を達成したかという業績に加え、そのためにどのような行動をとったのか(How)を評価し、処遇につなげる制度を導入しています。従業員が継続的にパフォーマンスを発揮し、それに対して会社が適切に報いる取り組みを推し進めています。

● 人事方針

- ①全社員に対し、意欲ややりがいを感じられる機会を提供し、潜在能力の高い社員には、成長のサポートを提供する
- ②職場における能力開発を重視し、推進する
- ③パフォーマンス(成果と発揮能力)に連動して報いる
- ④適時適材適所で登用し、職責に応じて処遇する
- ⑤チームでの成果創出を支援する
- ⑥社員の多様なバックグラウンド(性別・年齢・経験など)を尊重する
- ⑦社員の健康とワークライフバランスを推進する
- ⑧ファンクションごとのマネジメントシステムを確立し、各専門性の向上を支援する

■ 制度ごとの目指す姿

報酬・福利厚生

- ・パフォーマンスの評価結果に応じ、変動給(賞与・インセンティブ)で適切に報いる
- ・職務ごとに定義された役割・責任に基づく、職務型のグレード・報酬制度を採り入れる
- ・グレードごとに基本給の幅を設定することで、能力や経験を反映する
- ・市場競争力があり公平な報酬水準の実現を目指す
- ・社員に評価され、喜ばれ、そしてビジネスの成長に資する報酬・福利厚生制度を目指す

評価

- ・個人の業績目標は、上長の目標に連動し、事業全体の戦略・目標に沿ったものとする
- ・社員一人ひとりの業績と役割行動を評価し、包括的に処遇に反映させる
- ・評価者と被評価者の双方向コミュニケーションを徹底する

就業環境

- ・多様なバックグラウンドを持った社員が活躍できるよう、柔軟なワークスタイルを提供する
- ・安全な職場環境を提供する

人材マネジメント／能力・キャリア開発

- ・ファンクションごとに、現場主導のマネジメントを促進する
⇒各ファンクションにビジネスパートナーを配置し、人材マネジメントを支援する
- ・ファンクションごとに必要とされる能力や専門性を強化する
⇒能力開発は上長および本人の両方が責任を持つものとする
- ・社員のキャリア開発を支援する
⇒社員の主体性を重んじ、自己開発を支援する
⇒自己開発に必要な具体的な行動要件や知識、スキルを開示する
- ・将来重要な役割を担う後継者を発掘し、育成を強化する
- ・グローバルに通用するリーダーになれるよう、能力を備えかつ希望する社員には育成支援を行う

働きがいのある職場づくり

コカ・コーラ・イーストジャパングループでは、社員が最高の力を発揮できる会社であることを目指し、意欲的な働き方を支援するとともに、多様性に富み、安全かつ健全で開かれた職場環境づくりに努めています。

社員に対する基本的な考え方

コカ・コーラ・イーストジャパングループでは、「社員が働きがいと誇りを感じるBest One(ベスト・ワン)企業となる」ことをビジョンに掲げています。

● 従業員数の状況(連結) (2014年12月31日現在)

従業員数 ^{*1}	男性	6,712名
	女性	685名
平均年齢		40.8歳
平均勤続年数		16.8年
管理職任用者数		1,198名
女性管理職任用者数		37名
女性一般職任用者数		648名
育児休業制度利用者数(累計)		55名
障がい者雇用率 ^{*2}		1.21%
非正規雇用からの社員登用者数(2014年通年)		28名
定年退職者再雇用者数		63名

*1 従業員数は正社員、嘱託を含む。

*2 障がい者雇用率は2014年6月時点。

ランチミーティング

コカ・コーラ・イーストジャパングループでは、オープンコミュニケーションを実現するために、社長と従業員が直接意見交換を行うランチミーティングを定期的開催しています。ディスカッションで上がった課題は社内内で共有され、今後の対応や推進へつなげていきます。



ランチを食べながらのフリーディスカッション

健全な労使関係

Best One(ベスト・ワン)企業を目指すために、会社と労働組合の協働は重要であり、労使協議会や労使懇談会などを通じて課題解決に取り組んでいます。お互いに成長を促し合い、健全な労使関係の構築を目指しています。

コカ・コーラ アンバサダーとしての取り組み

コカ・コーラ・イーストジャパングループは、コカ・コーラ アンバサダーとして、日々の行動を通じ、『コカ・コーラ』にしかない特別な価値を広めています。

Drink

私たちは自社製品を積極的に飲み、周囲の人とも分かち合い、前向きでハッピーな気持ち呼び起こします。

Uplift

製品やプログラムを通じて、多くの人びととコミュニケーションをとることによって、コカ・コーラ社製品に対する信頼性と評価を高めます。

Refresh

飲み終わったらボトルをリサイクルし、移動には階段を使う。そういった小さなアクションの積み重ねによって、大きな変化を生み出します。

これらを実現するため、従業員とその家族、友人や仲間に対するコカ・コーラ アンバサダーの役割と必要性を確認しています。

コカ・コーラ・イーストジャパングループ(株)では、そのマインド醸成の一環として、従業員自らが感じる『コカ・コーラ』の世界感をカメラにおさめた社内フォトコンテストを実施。アンバサダーを体現し、共有することでアンバサダー活動の第1ステップとしました。



社内フォトコンテスト

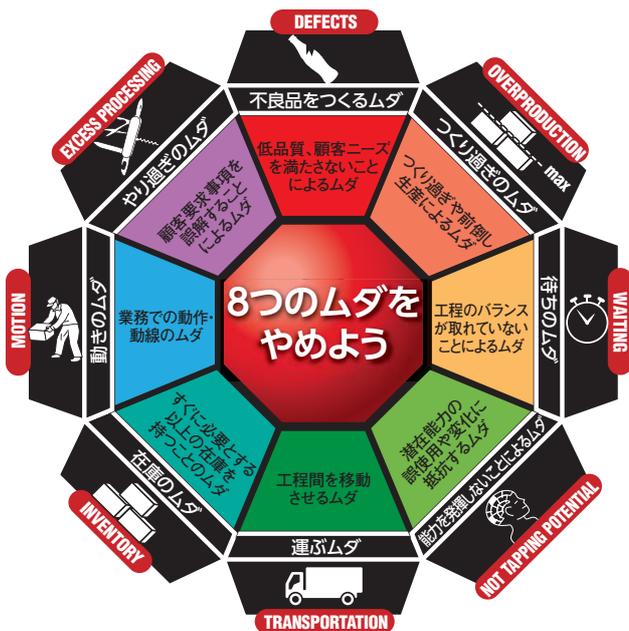
業務の改善と効率化

業務プロセスの改善によって、従業員が本来の業務に力を発揮することのできる職場環境を整え、品質と生産性の向上に取り組むとともに、「時間意識への変革」を共有することで、効率的な労働を推進し、社員のモチベーション向上を図っています。

■ 業務改善プロセス「OE(Operational Excellence)」

「OE(Operational Excellence)」は、人材を育成し、生産性の高い企業文化を創造する仕組みです。それぞれの職場で改善項目「8つのムダ」を掲げ、「徹底的なムダの排除」を実践。成果を共有しながら「業務の標準化」を行い、「主要KPIIにおいて世界トップクラスのボトラー社になる」、「全従業員自らが継続的な改善活動に取り組んでいる状態になる」ことを目指すゴールとしています。

コカ・コーライーストジャパングループは、日々の業務を見直し、業務改善を社内に浸透させる活動を通じて、OE文化(自ら学び成長する文化)の醸成に取り組んでいます。



■ 勤務時間に関する取り組み

プライベートの時間を充実させることでフレッシュし、新たな気持ちで出勤することは、業務効率の改善にとって重要です。コカ・コーライーストジャパングループでは、勤務時間に関する意識改革活動や諸制度の整備を積極的に推進しています。



勤務時間に関する意識改革を図る「社内啓発ポスター」

安全への取り組み

従業員が一日の仕事を笑顔で終えてスマイルを家に持ち帰るために、当社では労働安全衛生の活動を通して、職場の安全化に取り組んでいます。

■ スマイルKYT活動

従業員に対して労働災害事故を防ぐ意識づけを強めるために、「スマイルと帰ろう!!」のスローガンのもと、スマイルKYT(危険予知トレーニング)研修を実施しています。この研修は、従業員の危険感受性を高め、作業の中に潜んでいる危険の芽を予知することで、従業員を労働災害から守ることを狙いとしています。



スマイルKYT研修



■ 労働安全衛生マネジメントシステム「OHSAS 18001:2007」

コカ・コーライーストジャパングループ(株)の全工場において、労働安全衛生マネジメントシステム「OHSAS 18001:2007 (Occupational Health and Safety Assessment Series)」を導入しています。労働災害発生リスクの低減措置や設備の点検、災害時の対応を含めた従業員教育等の各要求事項を満たした基準を構築し運用することで、継続的改善を図っています。



OHSAS安全トレーニング

● 労働災害発生状況(サプライチェーン全体)

	2013年	2014年	前年比
発生件数(件)	38	33	△5
発生率(%)*	0.82	0.64	△0.18

*従業員約100人あたりの1年間の労働災害発生率

地域社会の発展に貢献する活動

地域社会が健全であることが持続的な事業活動の前提であるという考えのもと、社会貢献活動に取り組んでいます。コカ・コーライーストジャパングループでは、災害対策や自然保護活動のほか、子どものための教育支援など、幅広く地域社会における活動を展開しています。

災害対策

■ 自治体との災害協定による清涼飲料の優先供給

コカ・コーラシステムでは、本業を通じた社会貢献として全国の自治体との協議のもと災害協定を進め、災害発生時に緊急に清涼飲料が必要な場合、自治体の要請に応じ、優先的に清涼飲料提供を行っています。また、災害協定を元に、災害時に電光掲示板で災害関連情報を掲出し、遠隔操作や手動によって機内在庫を無償で提供できる、災害対応型自動販売機の設置も進めています。コカ・コーライーストジャパン(株)では、382の自治体と災害協定を締結しています(2014年1月現在)。

● 当社エリアにおける災害協定締結自治体数

都道府県	9
市	160
町	64
村	8
市町村の外郭団体	141

コカ・コーラ復興支援基金を通じた取り組み

コカ・コーラ復興支援基金では、被災地の小中学校へ太陽光発電設備やスクールバスを贈るなどの復興支援を行っており、当社ではこの活動を支援しています。



自然保護活動

■ 環境ボランティア活動

コカ・コーライーストジャパングループの従業員は、各地域で実施される環境保全活動に積極的に参加しています。



霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦



■ 清掃活動

コカ・コーライーストジャパングループの各拠点では、積極的に清掃活動を行っています。自らが働く街や道を、自らの手できれいにしようという思いから自発的に始まった清掃活動は、地域のみなさまのご協力・ご理解に支えられて継続しています。



次世代を担う子どもたちへの活動支援

■ 奨学支援事業

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団では、経済的理由で進学困難である優秀な人材の育成を支援するため、奨学金を給付しています。1966年に開始した当奨学金事業は、当社エリア内において、これまでに555人の卒業生を輩出しています(2014年3月現在)。



■ 英語弁論大会

コカ・コーラシステムでは、「国際性豊かな青少年を育てるために、英語教育の普及を図り、日本文化の発展と国際親善に寄与する」という理念に賛同し、1963年から高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に協賛を続けています。当社エリアからも多くの中学生が参加し、2014年は中央大会決勝において2位から5位まで入賞しました。



■ かけっこプログラム

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、NPO法人日本ランニング振興機構と協働で、すべてのスポーツの基礎である「かけっこ」を通じて子どもたちの心と体を育てるプログラムを2008年より展開しています。2014年は、小学生を対象にした「かけっこクリニック」が当社エリア2カ所で開催され、226人の小学生に運動することの楽しさと正しい走り方を学んで頂きました。



■ コカ・コーラ環境教育賞

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団が展開するコカ・コーラ環境教育賞は、1994年の賞設立から21回目を数え、これまで環境ボランティア活動の助成・支援を通じた環境教育・環境保全活動の促進を目的として、国内の環境教育分野の推進に大きく貢献しています。当社エリアからは、5団体が優秀賞を受賞しました。





Water Neutrality



日本から地球のハッピーをつなぐ

コカ・コーラシステムは、使う水は最大限に有効利用し、使った水はきれいにしてから自然に還すことをお約束しています。そして、水源エリアの自然環境が持続的に水を育み蓄える力を持ち続けられるように積極的な水資源保護活動に取り組んでいます。当社は、2020年までに製品および製造過程で使用した量と同等の水を自然に還す「Water Neutrality(ウォーター・ニュートラルティー)」を推進していきます。



坂入 マリア アントニーナ

Maria Antonina Sakairi
コカ・コーラ・イーストジャパン株式会社
環境労働安全衛生統括部 環境戦略課

現場の意見を尊重し、 工場が求める最良のシステムを提案

大学や政府の研究機関で、微生物を用いて水を浄化処理する技術を研究していました。現在は、製造工程における節水と省エネを実現するシステムを拡充させるため、プロジェクトを企画提案する仕事に就いています。提案にあたっては、現場の意見を尊重しながら複数の方法を検討し、ディスカッションを重ね、製造ライン担当者が求める最良の方法を導き出していくよう努めています。特に効果の高い成功例については、パイロット版として他の工場に水平展開します。節水や省エネに貢献できるのは、研究職時代には得られなかった嬉しさです。

生産性向上と活動指標の 「見える化」がポイントに

工場では、徹底的なムダの排除と継続的改善を目指す業務プロセス「OE(Operational Excellence)」を展開し、水やエネルギーの削減についても積極的に取り組んでいます。生産効率を上げて単位あたりの使用量を削減することで、水やエネルギーの効果的使用が可能となり、ムダ・ロス削減につながります。また、水、エネルギーの活動指標をリアルタイムで「見える化」したことにより、従業員の貢献度が身近なものとなり、さらなる改善に結びついています。



平山 隆之 Takayuki Hirayama

コカ・コーラ・イーストジャパンプロダクツ株式会社
製造統括部 岩槻工場 製造課 課長



片見 篤史 Atsushi Katami

コカ・コーラ・イーストジャパン株式会社
広報・パブリックアフェアーズ本部
サステナビリティ・マネジメント部
サステナビリティ担当

より多くの方々に 参加して頂けるイベントを

サステナビリティ担当として、水資源保護活動の推進、水源地域での環境教育プログラムの実施に携わっています。水資源保護は、植樹をはじめ、林道の整備、害獣からの保護、間伐など、地域に合った活動を、その地域の方々や専門家の方々とともに、5年、10年、20年と中長期のスパンで継続していくことが重要です。これからも、より多くのステークホルダーの方々とともに、水資源保護活動を推進していきたいと思っております。



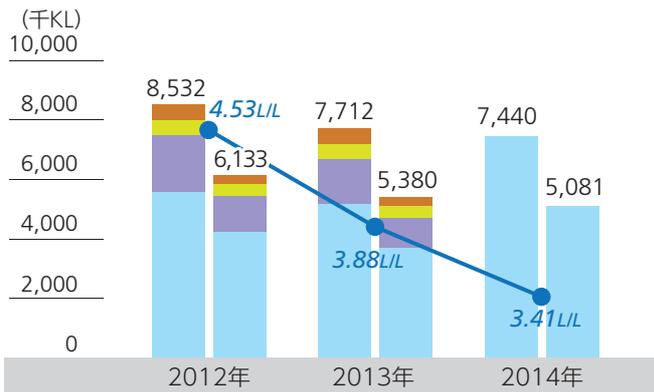
Reduce

リデュース(水の使用量削減)

コカ・コーラーストジャパン(株)では、コカ・コーラシステム世界共通のマネジメントシステム「KORE(Coca-Cola Operating Requirements)」の厳しい品質基準を遵守しながら、製造時に使用する水の使用量削減を進めています。



● 水使用量と排水量の推移
製品1リットルあたりの水使用量の推移



左:水使用量 右:排水量 ● 製品1リットルあたりの水使用量



- コカ・コーラーストジャパンプロダクツ(株)
- コカ・コーラセントラルジャパンプロダクツ(株)
- 三国アセプティック(株) ■ 白州ヘルス飲料(株)

注:コカ・コーラーストジャパンプロダクツ(株)は、コカ・コーラセントラルジャパンプロダクツ(株)、三国アセプティック(株)、白州ヘルス飲料(株)を2014年1月に吸収合併。

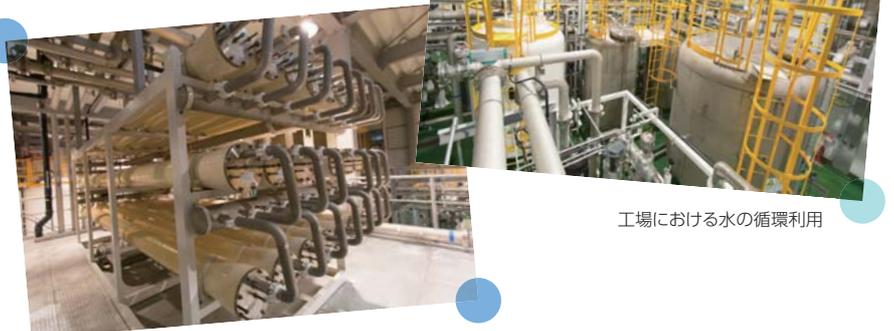
Reuse

リユース(水の再利用)

当社工場では、取水管理、水質管理、効率的活用、排水管理、水資源保護の5つの側面から水資源を管理しています。洗浄用の水や加熱用の水蒸気も効率良く再利用しています。

● 製造工程における使用水の再利用化

約**28%**



環境活動報告

コカ・コーラシステムでは、「2020 Vision」の環境目標として、清涼飲料容器（パッケージ）やCO₂総排出量・エネルギー削減の分野で清涼飲料業界のリーダーになることを目指し、当社グループもこれらの目標達成に向けたさまざまな活動を推進しています。

CO₂総排出量・エネルギー削減

■ 工場での取り組み

コカ・コーラシステムでは、製造部門において2015年までにCO₂の総排出量を2004年比で10%削減するという中期目標を掲げています。そのための対策として、工場を動かすのに必要なエネルギー源を重油から都市ガス・天然ガスに転換するエネルギーシフトや、一つのエネルギーから電気と熱を同時に発生させるコージェネレーションシステムの導入によって、エネルギーの効率的利用を可能にしました。さらに断熱・熱交換の徹底なども行っています。



■ 工場での節水と省エネによるコスト削減金額（年間）

¥5億8,000万円

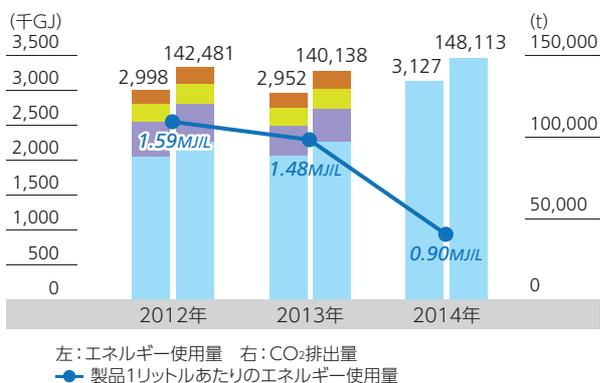
■ 物流・オフィスでの取り組み

物流部門では、輸送の効率化やエネルギーシフトの推進、エコドライブの推進・徹底、電気自動車やハイブリッド車など低燃費車両への入替促進などにより、コカ・コーラシステム全体でCO₂削減5%（2004年比）の目標を設定しています。オフィス部門では、照明のLED化や空調設備の入替・更新などを通じてシステム全体で3%のCO₂削減を目指しています。当社グループもこれらの目標達成に向け、事業を通じCO₂削減に取り組んでいます。

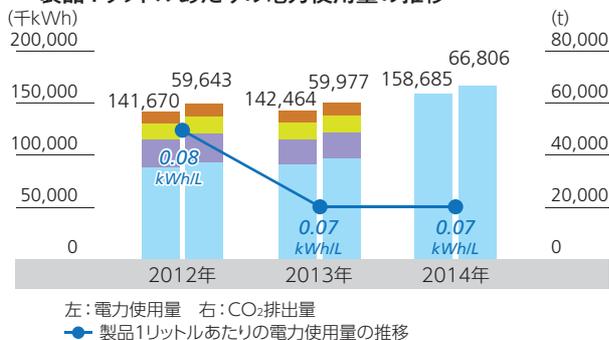


電気自動車

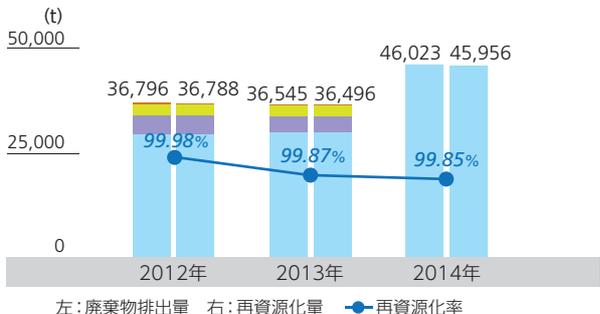
● エネルギー使用量とCO₂排出量の推移 製品1リットルあたりのエネルギー使用量の推移



● 電力使用量とCO₂排出量の推移 製品1リットルあたりの電力使用量の推移



● 廃棄物排出量と再資源化率の推移



■ コカ・コーライーストジャパンプログツツ(株)
■ コカ・コーラセントラルジャパンプログツツ(株)
■ 三国アセプティック(株)
■ 白州ヘルス飲料(株)

注: コカ・コーライーストジャパンプログツツ(株)は、コカ・コーラセントラルジャパンプログツツ(株)、三国アセプティック(株)、白州ヘルス飲料(株)を2014年1月に吸収合併。

循環型社会の実現に向けて

■ 空容器のリサイクル

自動販売機の横にある空容器回収ボックスで回収された空容器は、限りある大切な資源と考え、自社または各地域のリサイクル会社を通じて再資源化しています。また、集められた空容器は適正に処理され、リサイクルボックスなどに生まれ変わります。



江南リサイクルセンター



空容器回収ボックスにも回収した空容器のPET素材を一部使用しています。

製品の容器をリサイクルしてできたユニフォーム



■ サステナブル・パッケージ (持続可能な容器)

コカ・コーラシステムでは、製品パッケージは環境にやさしく、人にとっても使いやすくなければならないという考えのもと、「サステナブル・パッケージ (持続可能な容器)」という世界共通のコンセプトで容器開発に取り組んでいます。

たとえばPETボトルでは、持ちやすさや輸送・保管時の耐久性など、製造からお客様が飲み終わってボトルをリサイクルするまで、すべての段階で使いやすいことを追求しながらパッケージ開発に取り組んでいます。

● 地球と人にやさしい容器 「サステナブル・パッケージ」



● 容器に植物由来の素材を一部使用した『いろ・は・す』



ウォーターブランド『いろ・は・す』には、再生可能な植物由来材料を一部(5~30%)に使用した次世代型PETボトル「プラントボトル」を採用。

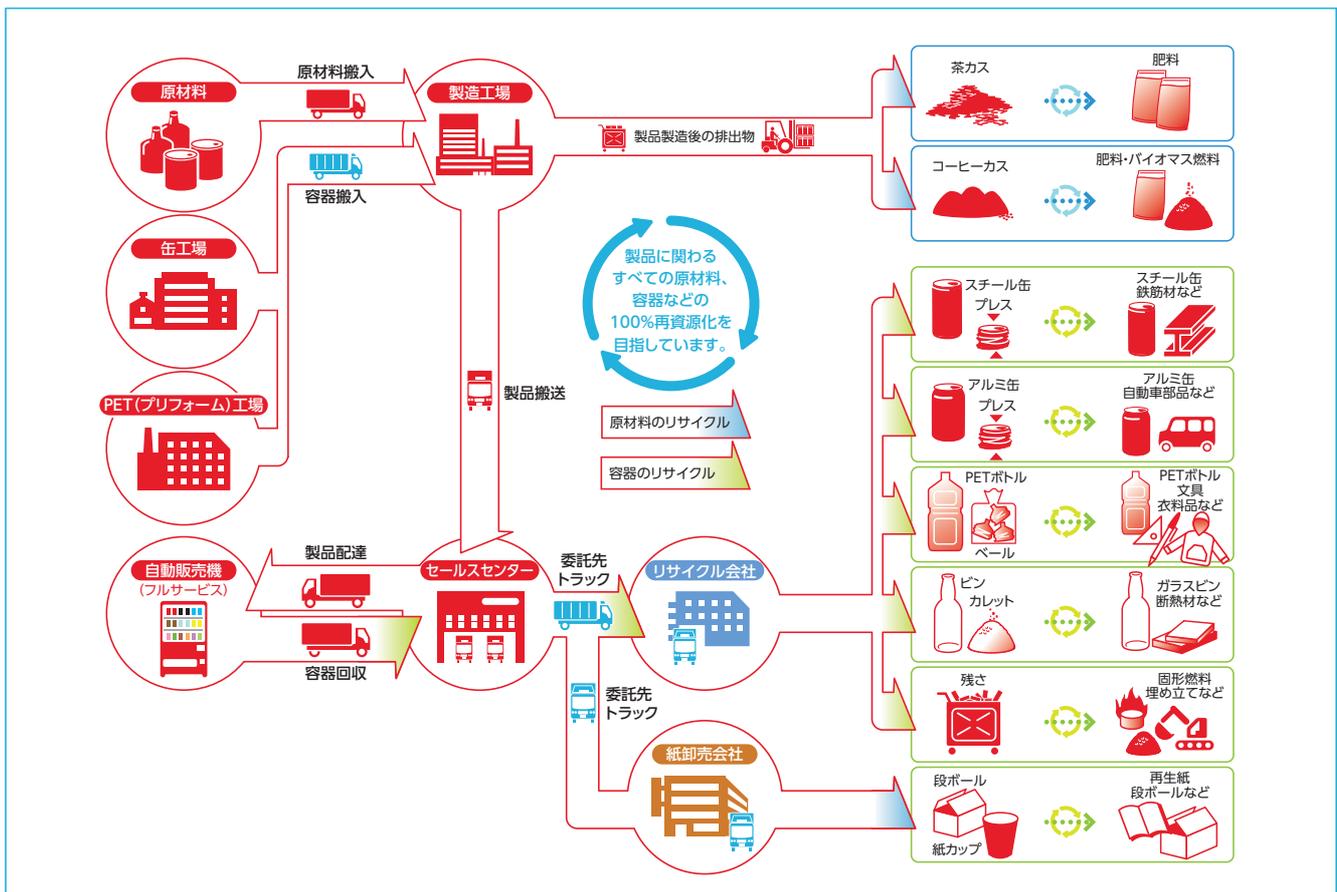
● 大型PETボトルの「使用後にかさばり邪魔になる」というお客様の声から生まれた「ペコらくボトル」

ペコらくボトル

「つぶしやすさ」だけでなく、「握りやすさ」、「注ぎやすさ」も従来のPETボトルより向上。



● 原材料／容器のリサイクルフロー



マネジメント体制

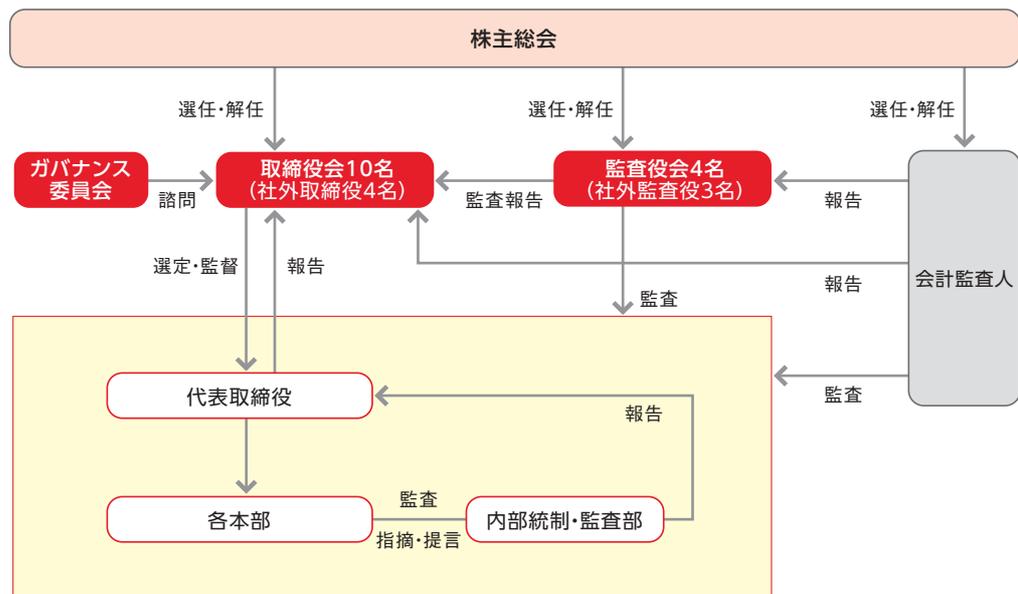
■ コーポレート・ガバナンス

コカ・コーラ・イーストジャパン(株)は、コーポレート・ガバナンスの強化を経営の最重要課題であると考え、取締役会・監査役会体制により、迅速な意思決定による効率的なグループ運営を行い、経営の効率化、営業力の強化ならびに経営の透明性の確保に努めています。

当社の取締役会は、4名の社外取締役を含む10名の取締役で構成されています。社外取締役の高い識見に基づく経営上有用な意見等を経営の意思決定に反映させるとともに、業務執行の監督権限を強化することで、取締役会の機能が十分に果たせるよう体制整備に努めています。取締役の任期は1年です。

また当社は、社外取締役4名を含む非常勤取締役5名で構成されるガバナンス委員会を設置しています。本委員会は、経営の効率性および透明性を向上させ、株主価値の増大を図ることを目的として設置しており、「人事報酬に関する事項」や「監査、コンプライアンスおよびリスクに関する事項」を取締役会に対し諮問しています。

監査役会は、3名の社外監査役を含む4名で構成されています。監査役は取締役会その他重要な会議に出席するほか、代表取締役、取締役等との意見交換を通じて、職務執行に係る監査機能を十分行える体制となっています。なお、社外取締役4名のうち2名を独立役員に指定しています。



■ 社外取締役および社外監査役

当社の社外取締役および社外監査役は、中立かつ客観的観点から当社の経営上有用な意見等を行っています。

社外取締役および社外監査役の選任については、その独立性に関する基準または方針を定めておりませんが、証券取引所の独立性に関する判断基準を参考にし、候補者を選定しています。なお、社外取締役2名および社外監査役2名は、東京証券取引所が定める独立役員としての要件を満たしています。

■ 役員の報酬等の額の決定に関する方針

取締役の報酬については、株主総会の決議により報酬総額の上限を定めており、各取締役の報酬は、役位ごとの役割の大きさや責任範囲および業績等を勘案し、決定しています。なお、取締役(社外取締役を除く)に対し、株式報酬型ストックオプションを導入しています。

監査役の報酬については、株主総会の決議により報酬総額の上限を定めており、各監査役の報酬は、常勤・非常勤の別、監査業務の分担の状況等を考慮し、監査役の協議により決定しています。

当社は、社外取締役および監査役に対しては、賞与は支給していません。

■ 内部統制システム

内部統制の仕組みについては、内部監査部門として、内部統制・監査部を設置し、当社およびグループ会社の業務活動が法令および社内諸規程などに準拠して、適正かつ効果的に行われているか監査しています。会計上の諸問題などについては、外部専門家である会計監査人と連携が図れるよう体制を整えています。

■ 倫理・コンプライアンス

当社は、企業の社会的役割や責任を果たし、社会とともに持続的に発展する企業であり続けるために、従業員一人ひとりが誠実に行動するための基本事項を定めた「事業運営規範」を制定し、倫理・コンプライアンスを重視する社風の促進を図っています。社長からのメッセージや事業運営規範説明会の開催などを通じ、各職場の管理者が中心となって、倫理・コンプライアンスに対する考え方を従業員に浸透させています。

また、本年は管理者を対象に、独占禁止法および贈収賄防止に関する教育研修を実施しました。

その他、企業活動の中で、各種法令や「事業運営規範」などに抵触するような事項および懸念がある場合に、専用メールや電話により直接相談できる「倫理・コンプライアンス相談窓口」を社内および社外の弁護士事務所に設置するなど体制を整えています。

■ リスクマネジメント

当社は、全世界のコカ・コーラグループと連動し、全社的リスクマネジメントの核として、①リスクの事前予防のため、潜在的なリスクの発現可能性を低減させる「エンタープライズ・リスクマネジメント(ERM)」、②リスクが発生した後の迅速な対応を実行するため、顕在化したリスクの影響を低減させる「インシデント・マネジメント&クライシス・レゾリューション(IMCR)」、③事業の中断・阻害に対応し、事業を復旧・再開し、予め定められたレベルに回復するように導く「事業継続計画(BCP)」を構築しています。

全社的リスクマネジメントの推進については、エンタープライズ・リスクマネジメント統括部がERM、IMCR、BCPを構築・運用し、継続的に改善する責任と役割を負っています。同部は、取締役会、経営会議と連動し、関連する部署、管理職、従業員および取引先が自律的にリスクマネジメントを運用することができるよう、コミュニケーション、教育訓練、手順・ルール・基準の改善、必要な経営資源の投入等を順次計画し、実行しています。

最近の主な事例として、昨年9月に発生した当社製品『いろはす みかん』555ml PETボトルの自主回収、その他当社製品の品質問題に対する是正予防処置等に関して、当社のIMCRが運用されました。このように、ERM、IMCR、BCPが実際に運用され、そこで得た成功、失敗、教訓等をもとに、当社のリスクマネジメントの仕組みが継続的に改善・強化されていくよう努めています。



IMCR研修

■ 個人情報・機密情報の保護

当社は、個人情報の重要性を尊重し、その保護の徹底を図るために、個人情報の保護に関して適用される法令を遵守するとともに、プライバシーポリシーを制定し、それに基づいた活動を行っています。プライバシーポリシーは、お客様の個人情報に関係するすべての活動に適用します。

また当社は、個人情報や機密情報の流出、情報システムの破壊などの危険性に対処するため、情報セキュリティポリシーを定めています。退任・退職、あるいは契約の解除などにあたっては、個々の契約書により、機密情報に関する条件・制約が規定され、情報機器などの管理体制を整え、情報漏えい防止に努めています。

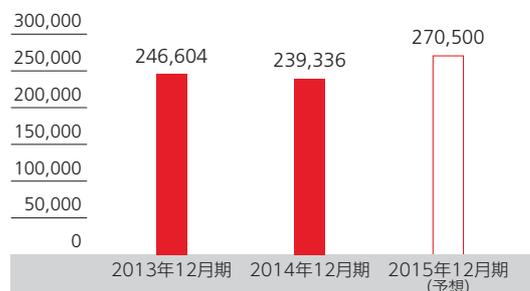
財務・株式の状況

■ 連結決算ハイライト (比較可能ベース※)

売上高 (百万円)



売上総利益 (百万円)



営業利益 (百万円)



当期純利益 (百万円)



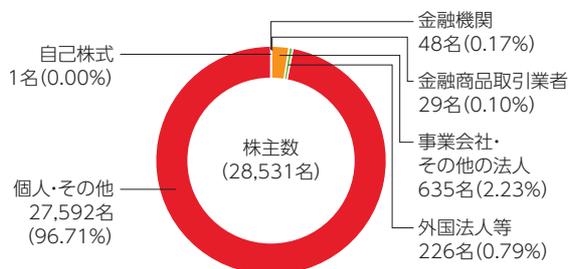
※グラフの数字は経営統合や一時費用等の影響を排除した比較可能ベースで記載しています。

■ 株式情報 (2014年12月31日現在)

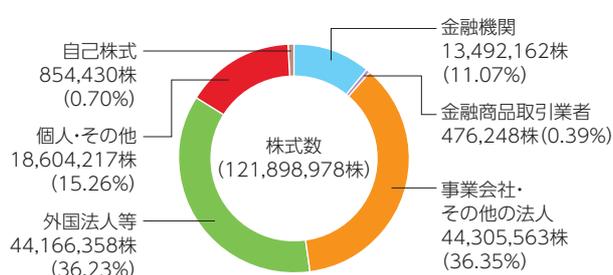
株式の状況

発行可能株式総数	487,000,000株
発行済株式総数	121,898,978株
株主数	28,531名

株主数の分布状況



株式数の分布状況



株主優待制度のご案内

当社では日頃のご支援に対する感謝のしるしと、当社製品へのご理解を深めて頂く機会として、毎年12月31日現在の株主のみなさまに、年1回当社製品を贈呈しています。

贈呈基準



優待品製品例 (写真の製品と異なる場合があります)

主要製品の紹介

コカ・コーラシステムでは、お客様の価値観や嗜好の変化、またライフスタイルの多様化に対応し、水分補給、栄養補給、友人・家族との団らんなど、さまざまなニーズに応える製品づくりに取り組んでいます。現在、日本のコカ・コーラシステムでは8つのカテゴリーにわたり300以上の製品を製造・展開しています。

コカ・コーライーストジャパン(株)は、製品の製造・物流・販売を担う日本最大のボトラー社として、お客様に安心してお飲み頂けるよう安全な製品を製造・販売しています。



COCA-COLA, コカ・コーラ, COCA-COLA ZERO, コカ・コーラ ゼロ, COCA-COLA LIFE, コカ・コーラ ライフ, GEORGIA, ジョージア, 爽健美茶, そうげんびっちゃ, からだすこやか茶, 綾鷹, あやたか, KOCHAKADEN, 紅茶花伝, 太陽のマテ茶, AQUARIUS, アクエリアス, AQUARIUS ZERO, アクエリアス ゼロ, FANTA, ファンタ, SPRITE, スプライト, REAL GOLD, リアルゴールド, Qoo, クー, MINUTE MAID, ミニッツメイド, I LOHAS, いろは・は・す, REAL, つむぎ, は, The Coca-Cola Companyの登録商標です。
Schweppes, シュウェッप्ス, は, Atlantic Industriesの登録商標です。
Glaceau, グランソー, は, Energy Brands Inc.の登録商標です。
©The Coca-Cola Company

コカ・コーライーストジャパン サステナビリティレポート2015

編集方針

当レポートは、コカ・コーライーストジャパン(株)および関連会社からなるコカ・コーライーストジャパングループのサステナビリティに対する考え方と取り組みをステークホルダーのみなさまにお伝えするものです。

サステナビリティの重点分野である「個人(お客様)」、「地域社会」、「環境」の分野ごとに、特色ある取り組みをフォーカスするとともに、この1年間の主な活動を分かりやすく紹介しています。

- **参考にしたガイドライン**
GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3.1版」
- **対象期間**
報告事例の対象期間は、2014年1月～2015年4月末までを原則としています。データの集計期間は、2014年1月～12月末までです。
- **対象範囲**
当レポートで開示しているデータは、コカ・コーライーストジャパン(株)および関連会社における「製造」「物流・輸送」「販売」「回収・リサイクル」のデータです。
- **発行日**
2015年10月
- **用語について**
コカ・コーライーストジャパン(株)は当社を指し、コカ・コーライーストジャパングループ(当社グループ)は当社および関連会社を指します。ボトラー社は日本コカ・コーラ(株)が指定する全国のボトリング会社を指します。また、「コカ・コーラシステム」には日本コカ・コーラ(株)およびボトラー社・関連会社が含まれます。

Coca-Cola East Japan

工場見学のご案内

『コカ・コーラ』誕生のエピソードや『コカ・コーラ』の歴史や環境への取り組みをご紹介しますとともに、製造ラインを見学頂けます。ご予約は各工場へお電話ください。みなさまのご来場をお待ちしております。

無料!



工場見学のご案内ウェブサイト

<http://www.ccej.co.jp/plant/>
トップページ > イベント > 工場見学

CCEJ 工場見学

検索



事前のご予約が
必要です

① 多摩工場



所在地 東京都東久留米市野火止1-2-9
・西武池袋線 清瀬駅南口から西武バス
(武蔵小金井駅 前沢宿経由)にて約8分
「東久留米総合高校」下車
・西武池袋線 東久留米駅西口から西武バス
(武蔵小金井駅 錦城高校経由)にて約8分
「八幡町1丁目」下車
受付電話 042-471-0463
(9:00~16:00 土日・祝日・工場休業日を除く)

② 茨城工場



所在地 茨城県土浦市東中貫町4-1
・JR常磐線 土浦駅からタクシーにて約15分
・JR常磐線 神立駅からタクシーにて約7分
・常磐自動車道 土浦北インターから約10分
受付電話 029-831-2125
(9:00~16:00 土日・祝日・工場休業日を除く)

③ 東海工場



所在地 愛知県東海市南柴田町の割266-18
・名鉄常滑線 名和駅下車徒歩20分
・国道247号線(西知多産業道路)
二の割交差点を西へ200m
・最寄インター: 名古屋高速 笠寺IC、
伊勢湾岸自動車道 東海IC
受付電話 052-602-0413
(9:00~16:00 土日・祝日・工場休業日を除く)

④ 蔵王工場



所在地 宮城県刈田郡蔵王町宮字南川添1-1
・JR東北本線 大河原駅からタクシーにて約15分
・JR東北本線 白石駅からタクシーにて約20分
・東北自動車道 白石インターから約10分
受付電話 0224-32-3500
(9:00~16:00 土日・祝日・工場休業日を除く)

本レポートに関するお問い合わせ先

コカ・コーライーストジャパン株式会社(コカ・コーラ指定会社)

広報・パブリックアフェアーズ本部 サスティナビリティーマネジメント部
〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町3-13-6 Tel. 045-620-8187

<http://www.ccej.co.jp/>